

檜原市第 4 次総合計画 基本構想（案）

基本構想

基本構想の枠組みについて

1 将来ビジョン

『〇〇〇〇のまち（都市） かしはら』 ⇒将来の檀原市の姿を象徴的に示す端的なキャッチフレーズ

趣旨の説明文

- ・ 審議会に数案を提示し、選択を求める
- ・ 初回には決めきれない可能性があるため、後半の適切な審議会を設定し、そこまでに委員からの意見も受け付けることも考えられる

2 政策（4～5 本程度）

『①〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇』 ⇒テーマ別の目指す方向をわかりやすく示すフレーズ

趣旨の説明文

:

- ・ 審議会にフレーズ案を提示し、意見をいただく。
- ・ フレーズについては、1 将来ビジョンと併せて決定することになる。

3 都市形成の方針

- ・ 文章表現とする。（土地利用の方針図、都市構造図は都市マスに委ねる）

4 政策の展開方向

- ・ 「2 政策」と施策体系（政策分野別）の関係性を示す。

1 まちづくりの理念

「人とともに、歴史とともに、やさしく強いまち かしはら」

人が人を慈しみ、交流の輪が広がるまちづくり、誇りある歴史を大切にし、未来へと飛躍するまちづくりをとおして、市民生活のあらゆる面で、市民を「やさしく」包み込むような行政、市民が抱える不安には、「強く」頼もしい存在となり得る行政を目指します。このまちづくりの理念は不変のものとして、第4次総合計画でも承継していきます。

2 将来ビジョン

将来にわたる住みよいまちづくり、持続可能なまちづくりに向け、市民、事業者、行政が、それぞれの暮らしや仕事を通じて、それぞれの役割を果たしながら協働でまちづくりを進めていく共通の指針として、将来ビジョンを次のように定めます。

原案1「暮らす、つながる、きらめくまち かしはら」

原案2「はじまりから未来へ、羽ばたく交流のまち かしはら」

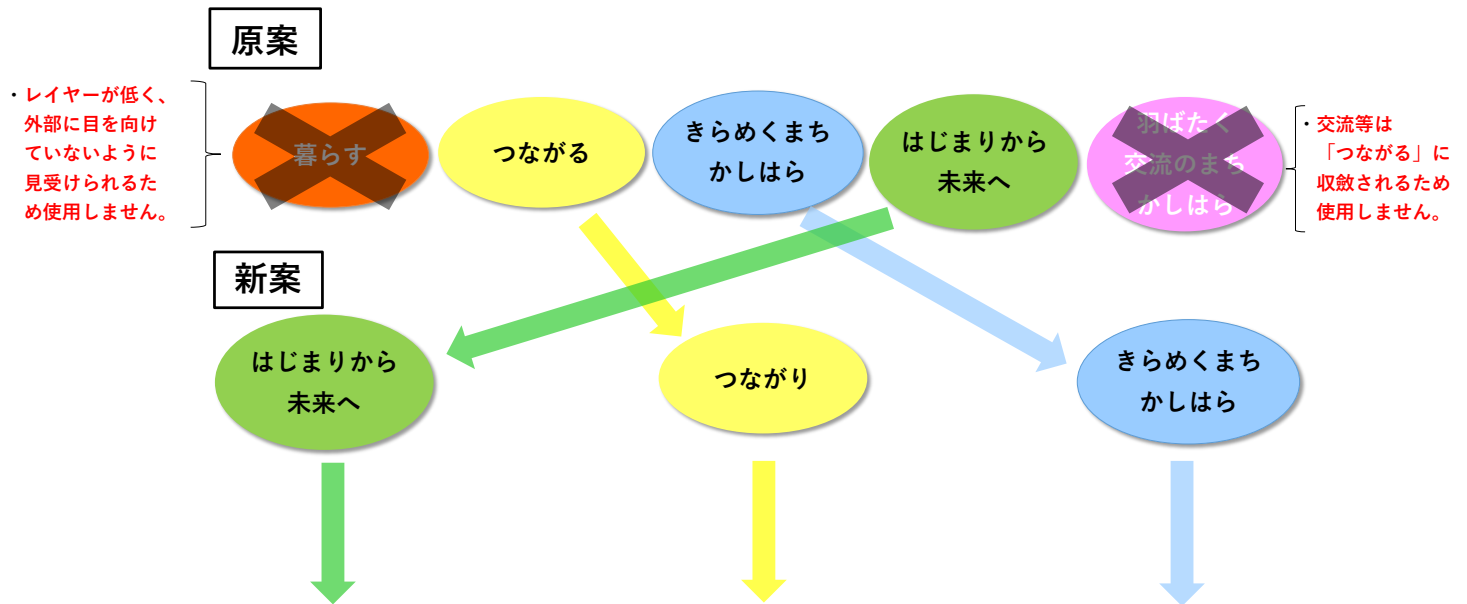
前回審議会において、提案された意見を反映して再度新案を作成しました。

新案「はじまりから未来へ、つながりきらめくまち かしはら」

日本国はじまりの地という橿原らしさと歴史の深さを入れる意味から、原案2の「はじまりから未来へ」という言葉を採用しました。また、意見として多かった原案1の「つながり」を入れることで、誰もが暮らしたいと思えるようなつながり（情報、縁、人、物など）を創出し、そのつながりが人を元気にするようなまちを目指します。また、人が生き活きとした輝きを放つような、人中心の社会の実現を目指します。

総合計画策定委員会においてもこの新案でよいとの結論に至りました。

新案にした理由

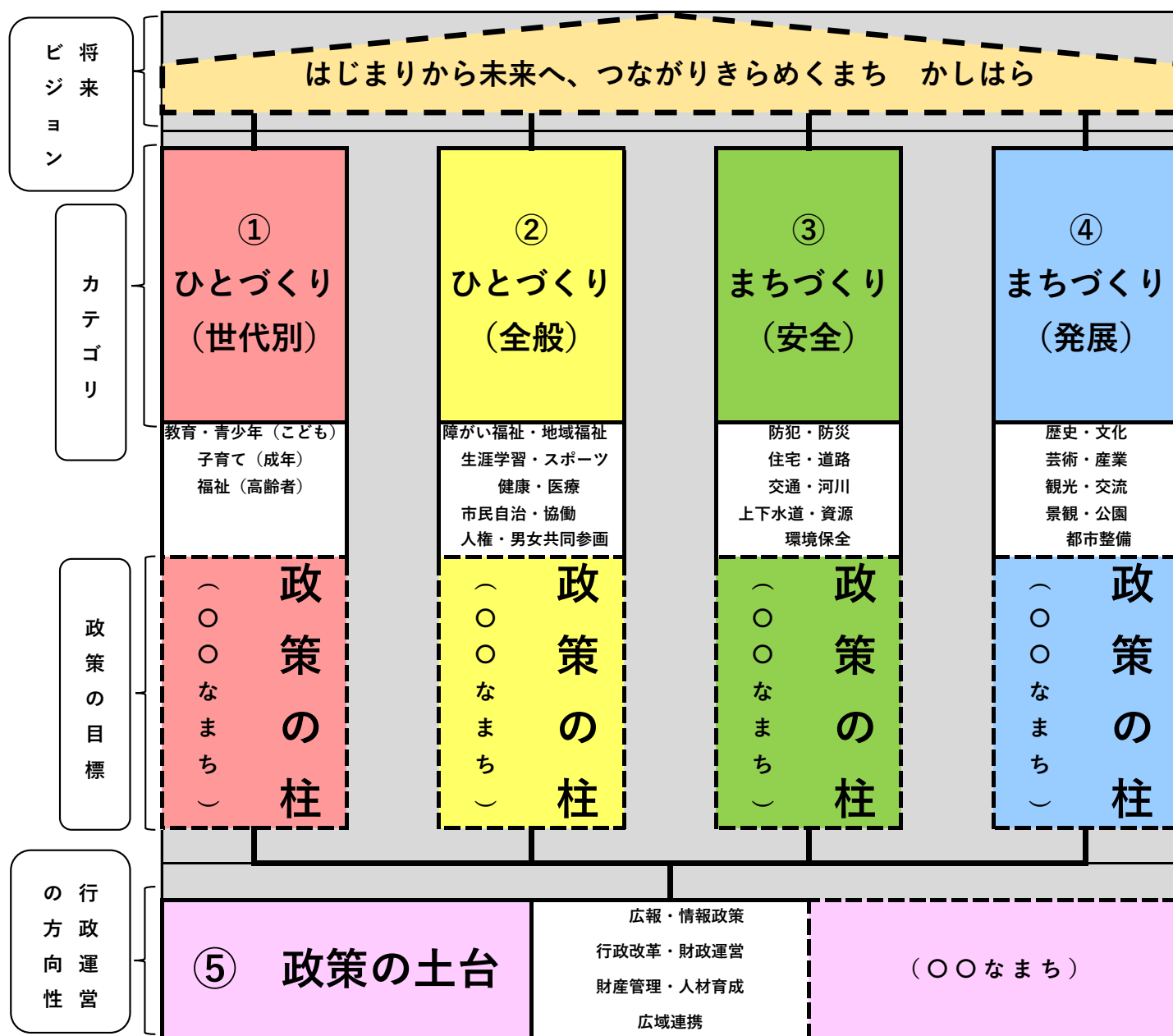


- ・「はじまり」は「歴史」を表し、「日本国はじまりの地」から由来します。
また、「未来」は未来への視点を表します。
- ・「はじまりから未来へ」とは「ゆりかごから墓場まで」という意味もあり、人の一生に寄り添う姿勢を表します。
- ・**樞原らしさを表現できます。**

- ・「住みたい」とは「その地とつながりたい」と言い換えられると考えられます。
- ・人・物・縁・情報などと「つながる」ことができると市外の人に理解されることで移住先として選ばれると考えます。
- ・その他、市に「つながる」関係者も意味し、関係人口の増加を目指します。
- ・**3次総括や時代背景、これからのことを考えると必要と思われます。**

- ・「きらめく」には「華やかで人目を惹く」「盛んにもてなす」という意味があり、「来たい」に応えたいという思いがあります。
- ・魅力を創出することで、交流人口の増加を目指します。
- ・**「人中心の社会」を念頭に、市民等の「人」がきらめく社会の実現を目指します。**

政策の目標について



政策の目標と総合計画等庁内策定委員会委員会の意見

カテゴリ	政策の目標	総合計画等庁内策定委員会に 提案した事務局案
① ひとづくり (世代別)	各世代を対象とした 施策	1 多世代が活力を生み、輝き続けるまち
		2 子どもから大人まで、みんなが きらめく まち
		3 多世代の誰もが活躍し、輝き続けるまち
		4 多世代の誰もが活躍できる きらめき のまち
② ひとづくり (全般)	市民全体を対象とした 施策	1 みんなが安らぎ、暮らし営めるまち
		2 互いにこころ結びあい、 つながり に安らぐまち
		3 みんなが健やかに、安心して暮らせるまち
		4 みんなが健やかで安心に暮らせるまち
③ まちづくり (安全)	安全安心な生活基盤 をつくる施策 (主にハード)	1 人と環境を守り、持続できるまち
		2 安全で美しい、 未来 に続く快適なまち
		3 安全で快適な生活が持続できるまち
		4 安全で快適な環境が持続できるまち
④ まちづくり (発展)	まちの魅力・活力を 生む施策 (主にソフト)	1 一人ひとりが つながり 、魅力を共創するまち
		2 活力と都市魅力を生み続ける、 はじまり のまち
		3 活力と賑わいあふれる魅力あるまち
		4 活力と賑わいのある魅力あふれるまち

⑤ 政策の土台	行政内部に関するこ と。各政策を実行し ていく姿勢。	1 工夫ある行政運営
		2 市民とともに「かしはら」をつくる信頼の行政運営
		3 工夫ある信頼の行政運営
		4 市民が信頼する自律的な行政運営

政策の目標に対する総合計画等庁内策定委員会の意見

(全体を通した意見)

- ・ 具体的なフレーズならばすべきことの方向性が分かりやすくよいのでは。一方で、各部の計画や具体的な施策との整合性を考えれば、抽象度が高いフレーズにした方がよいのでは。
- ・ 将来ビジョンの「はじまり」「未来」「つながり」「きらめき」を4本各々の柱のフレーズに入れる方が檀原らしさがあり、わかりよいのでは。
- ・ 将来ビジョンのフレーズを入れるのは、長くなって無理矢理な感じがする。「はじまりから未来へ」というフレーズを大事にするなら、無理に政策のフレーズに入れなくてもよいのでは。
- ・ 総合計画は市民目線で作成するべきであるので、政策のフレーズもわかりやすくシンプルにするべきでは。例えば、「都市魅力」の「都市」は不要では。
- ・ 表現については受動的・他律的なのか能動的・自律的なのかを意識し、統一する方がよいのでは。なお、今後の社会情勢（AI等）を考慮すれば能動的なフレーズがよいのでは。
- ・ 最終の見せ方を考慮してフレーズを考えた方がよいのでは。
- ・ 漠然とした表現で将来ビジョンと関わりを持たせるのがよいのでは。
- ・ 土台部分の語尾も「〇〇なまち」でよいのでは。

